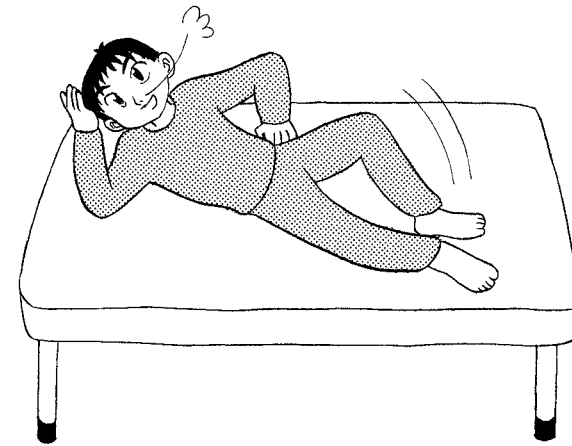


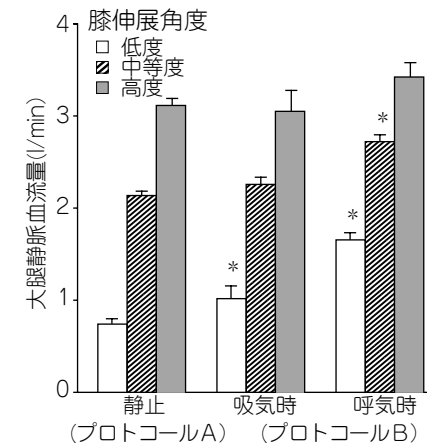
ベッド上での下肢運動に伴う筋ポンプと呼吸の影響について

研究代表者 東京医科大学 長田 卓也
 解説 下光 輝一

下肢運動が心臓へ血液を送り返し、全身の血液循環の手助けしているか、またそれに呼吸がどのように影響を与えているかを健常人男性を対象にして検討した基礎的な研究です。ベッド上における半仰臥位姿勢での膝の曲げ伸ばしに伴い、血液が心臓に効率よく運び出され、かつ呼吸もそれに大切な働きかけをしていることがわかりました。息遣えせず、息を吐きながら無理なく膝を動かすことが血行動態面では負担が少ないようです。本研究では、1回のみのものでかからない膝の曲げ伸ばしについて評価していますが、将来的には、運動処方への応用など、負荷のある連続的な下肢運動での検討にも興味があります。



息遣えせず、息を吐きながら無理なく膝を動かすことが血行動態面では負担が少ないようだ



プロトコールAおよびBにおける大腿静脈血流量

*p<0.05 プロトコールAに比較して